

図1. 平成元年～22年のわが国における食中毒事例の発生件数

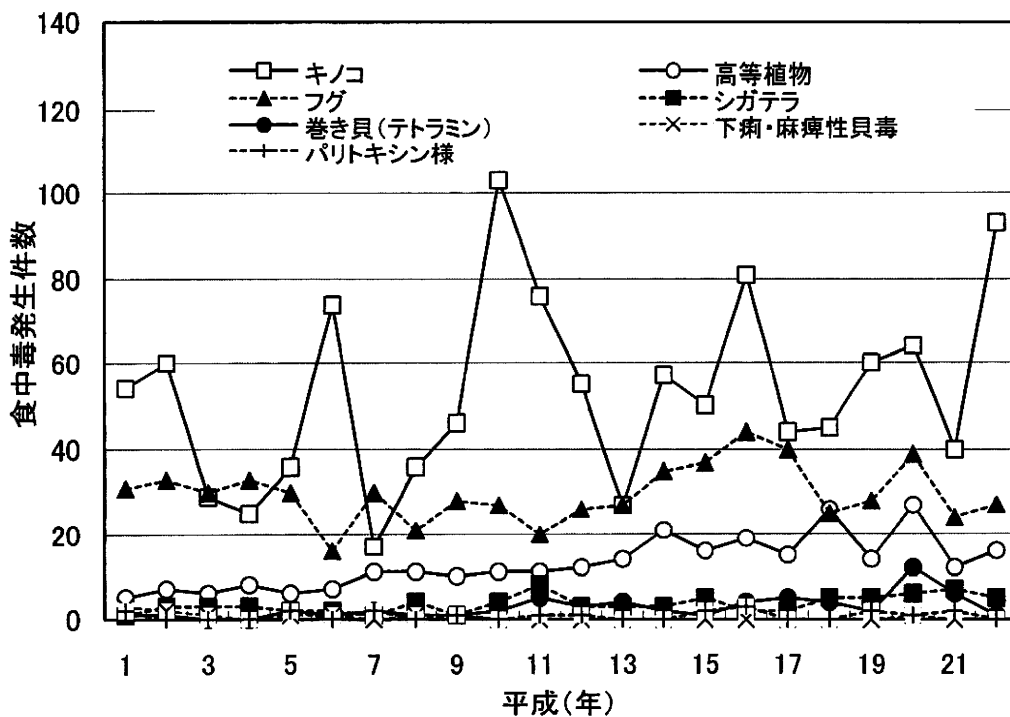


図2. 平成元年～22年のわが国における自然毒による食中毒事例の発生件数

表1. 平成元年～22年のわが国における自然毒による食中毒事例の発生件数、発症率及び死亡率

分類	病因物質	食中毒発生件数 (件)	摂食者数 (人)	患者数 (人)	発症率 (%)	死亡者数 (人)	死亡率 (%)
動物性	フグ	651	1,644	976	59.4	56	3.4
	シガテラ	78	493	284	57.6	0	0.0
	テトラミン	60	183	144	78.7	0	0.0
	パルトキシン様物質	19	119	65	54.6	1	0.8
	下痢・麻痺性貝毒	12	136	57	41.9	1	0.7
植物性	キノコ	1,172	5,075	4,291	84.6	30	0.6
	高等植物	285	2,026	1,473	72.7	7	0.3

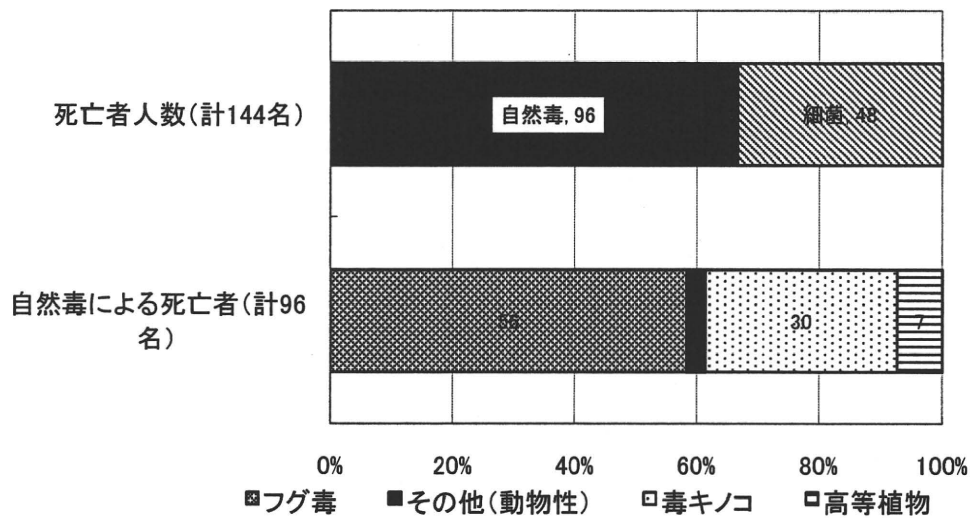


図3. 平成元年～22年のわが国における食中毒事例の死亡者数と病因物質

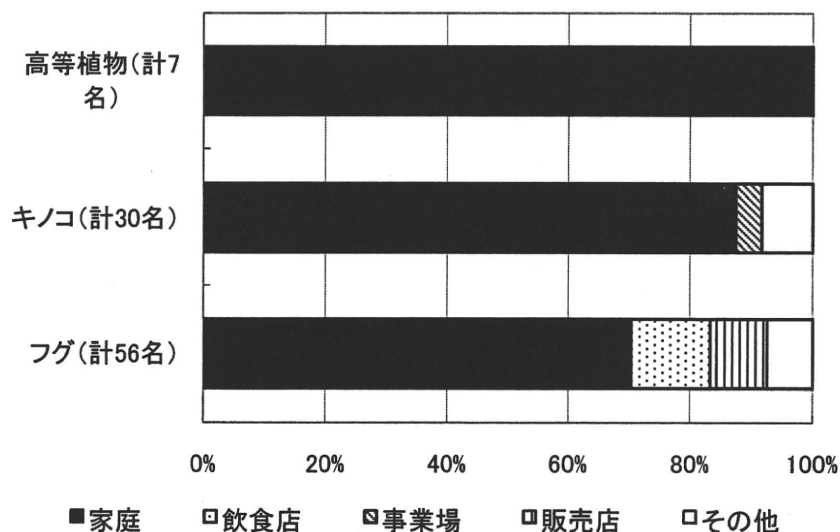


図4. 平成元年～22年のわが国における自然毒による食中毒死亡事例の原因施設

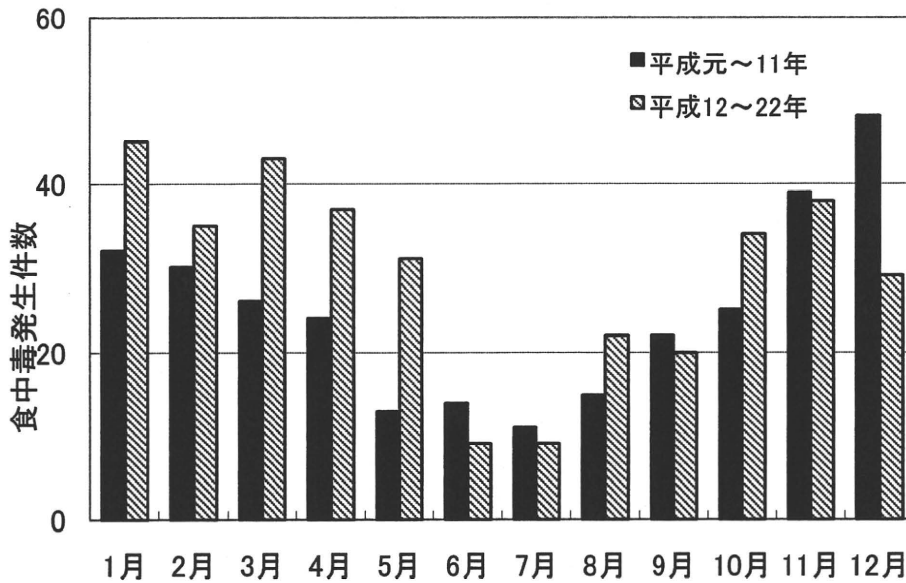


図5. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の月別の発生件数

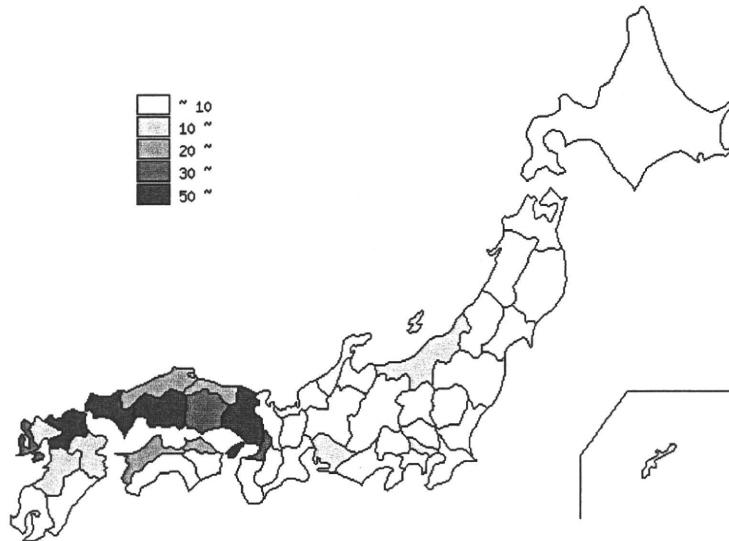


図6. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の地域別の発生件数

表2. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒死亡事例

フグ種類 ¹⁾	発生件数	死亡者数
クサフグ	4	4
ゴマフグ	1	1
コモンフグ	9	9
サバフグ	1	1
シマフグ	1	2
ショウサイフグ	4	4
トラフグ	3	3
ヒガンフグ	4	5
マフグ	5	5
不明/無記入 ²⁾	21	22
計	53	56

1) 推定の事例をを含んで合算

2) 全国食中毒事件録等で「魚種不明」又は無記名だった事例

表3. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の魚種(ただし、計651事例のうち魚種の名前が報告されていたのは318事例(49%))

原因魚種(推定の事例を含む)	計
アカメフグ	2
オキナワフグ	1
カナフグ	1
クサフグ	45
クサフグ、シヨウサイフグ	3
クサフグ、トラフグ	1
クサフグ、ヒガンフグ	1
クサフグ又はコモンフグ	1
クロサバフグ	1
ゴマフグ	4
コモンフグ	59
コモンフグ、シヨウサイフグ	1
コモンフグ、ヒガンフグ	1
コモンフグ、ヒガンフグ、マフグ	1
コモンフグ又はコモンダマシフグ	1
サバフグ	3
サンカクフグ	1
シマフグ	14
シヨウサイフグ	35
シヨウサフグ、ナシフグ、ヒガンフグのうち1種	1
シロサバフグ	1
センニンフグ	3
ドクサバフグ	6
トラフグ	38
トラフグ、キンフグ(推定:カナフグ)	1
ナゴヤフグ(標準和名は不明)	3
ナシフグ	8
ナシフグ他	1
ハコフグ	1
ヒガンフグ	38
マフグ	40
モヨウフグ	1
魚種不明	51
無記入	282
計	651

表4. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の原因施設

原因施設	発生件数	%
家庭	453	69.6
飲食店	103	15.8
販売店	48	7.4
事業場	11	1.7
製造所	2	0.3
仕出屋	1	0.2
旅館	1	0.2
その他	24	3.7
不明	8	1.2
計	651	100.0

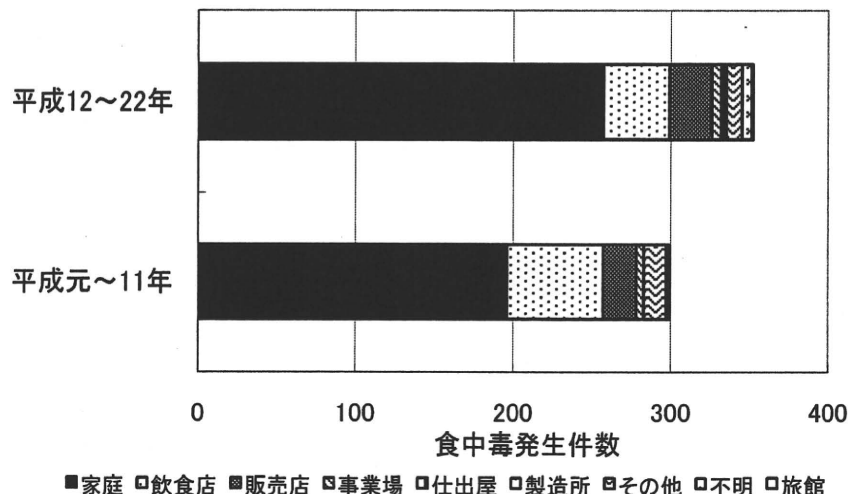
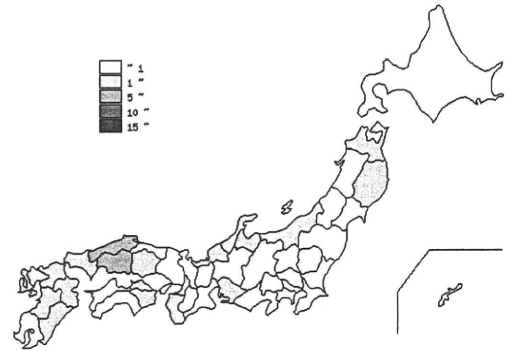
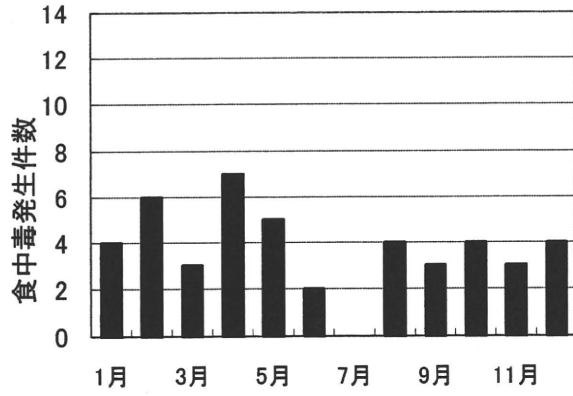
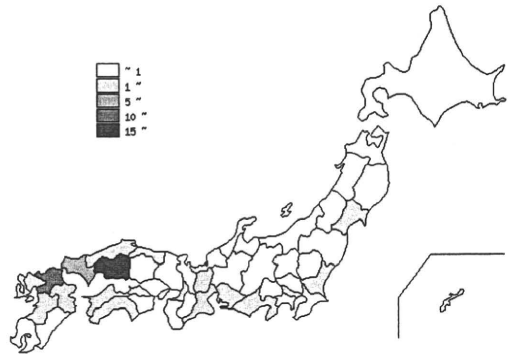
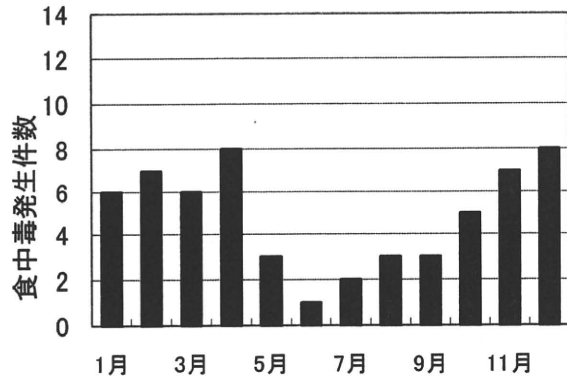


図7. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の原因施設

クサフグ



コモンフグ



ショウサイフグ

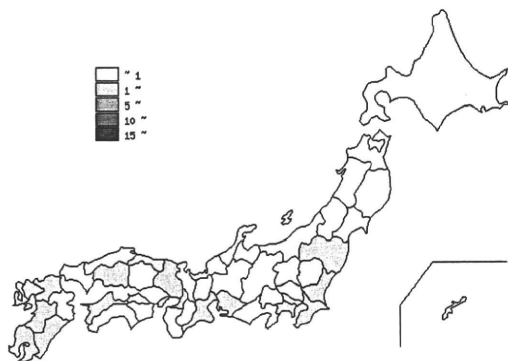
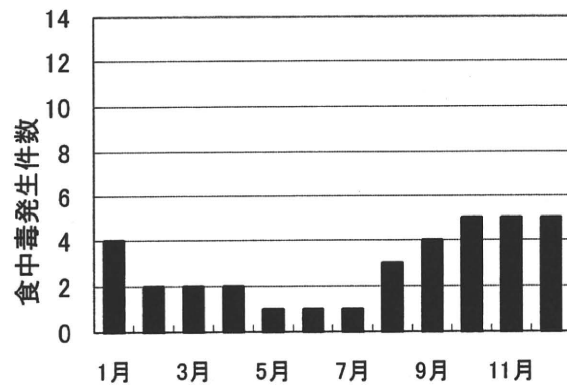
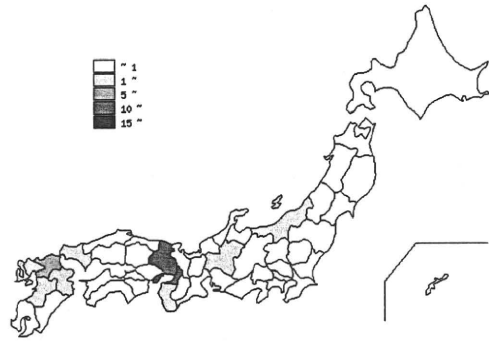
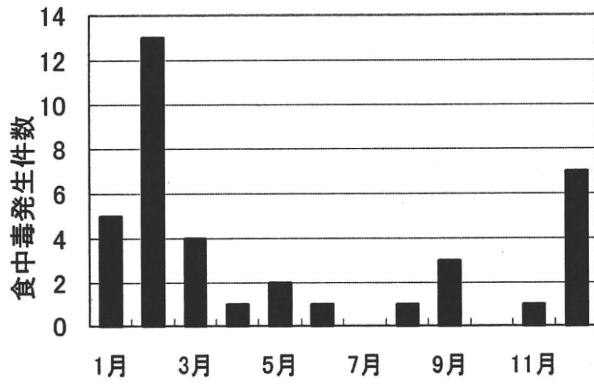
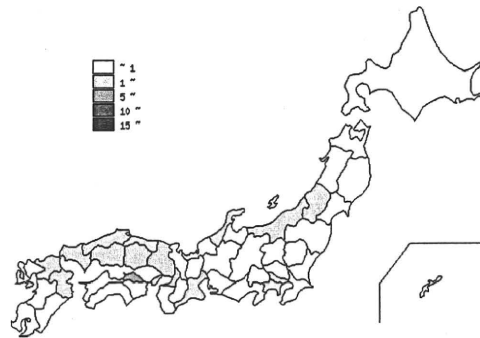
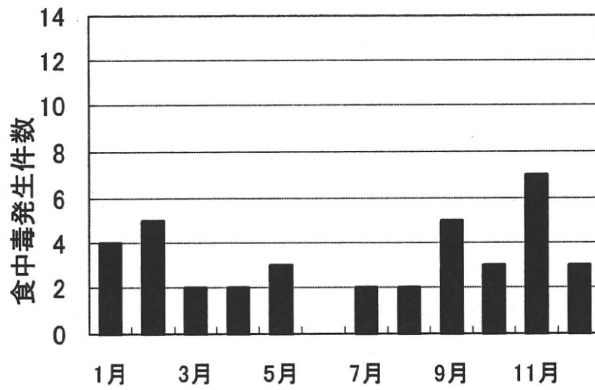


図8. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の発生件数上位の魚種の月別及び地域別の発生件数(その1)

トラフグ



ヒガンフグ



マフグ

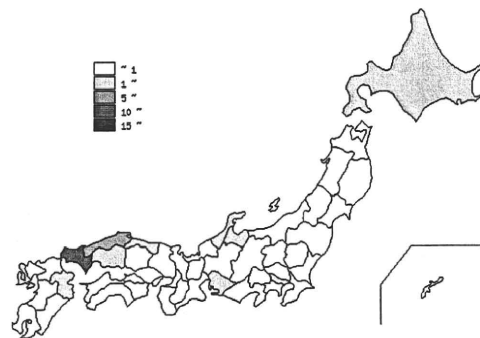
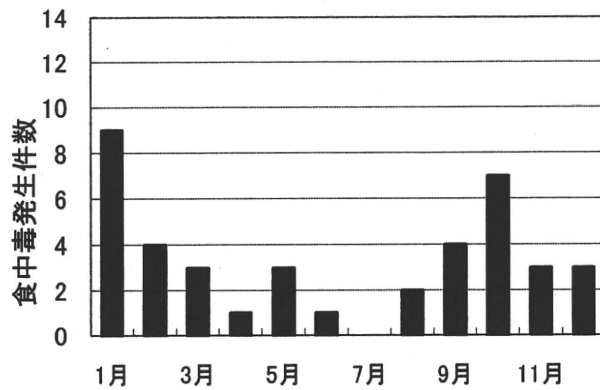


図9. 平成元年～22年のわが国におけるフグによる食中毒事例の発生件数上位の魚種の月別及び地域別の発生件数(その2)

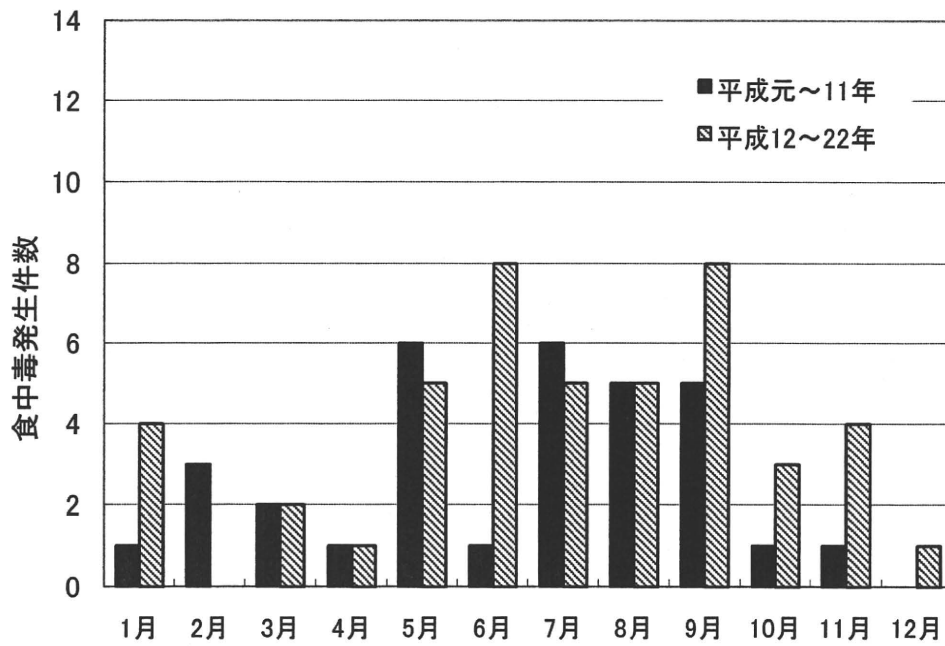


図10. 平成元年～22年のわが国におけるシガテラによる食中毒事例の月別の発生件数

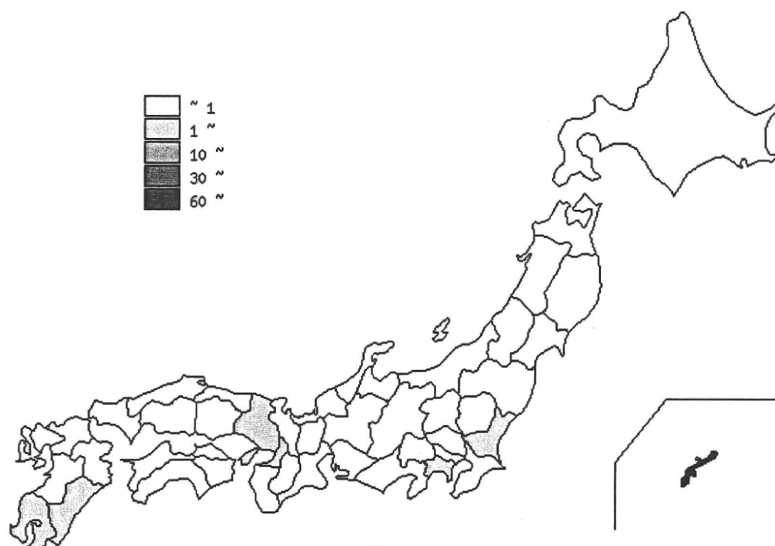


図11. 平成元年～22年のわが国におけるシガテラによる食中毒事例の地域別の発生件数

表5. 平成元年～22年の我が国におけるシガテラによる食中毒事例の魚種

原因魚種(推定の事例も含む) ¹⁾	計
アオノメハタ	1
アカマダラハタ	4
アジの一種(ロウニンアジと推定)	1
アズキハタ	2
イシガキダイ	6
イッテンフエダイ	12
ウツボ	4
オオアオノメアラ	1
オジロバラハタ	2
カンムリブダイ	1
コクハンアラ	1
ゴマウツボ	1
ゴマフエダイ	1
ニセクロホシフエダイ	1
ハギの一種	1
ハタ類	2
バラハタ	16
バラハタ、ヒムフエダイ (バラフエダイの可能性も否定できず)	1
バラフエダイ	11
ホシフエダイ	1
マダラハタ	1
不明/無記入	7
計	78

1) 推定の事例を含んで合算

2) 全国食中毒事件録等で「魚種不明」又は無記名だった事例

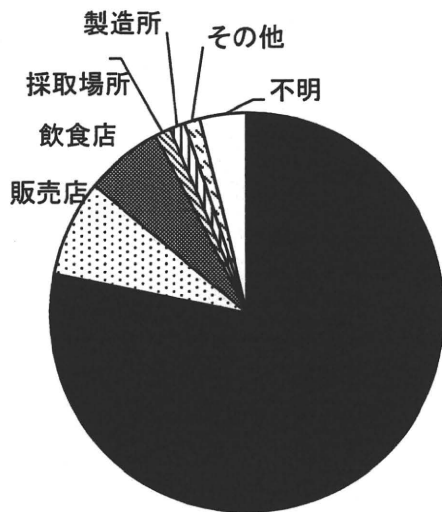


表6. 平成元年～22年のわが国におけるシガテラによる食中毒事例の原因施設

原因施設	発生件数	%
家庭	61	78.2
販売店	6	7.7
飲食店	5	6.4
採取場所	1	1.3
製造所	1	1.3
その他	1	1.3
不明	3	3.8
総計	78	100.0

図12. 平成元年～22年のわが国におけるシガテラによる食中毒事例の原因施設

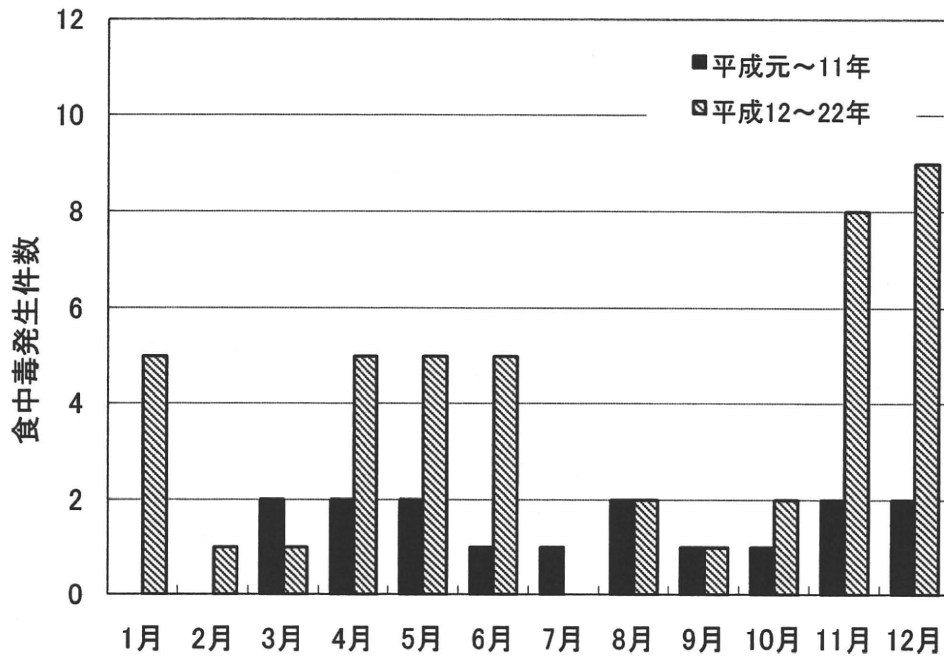


図13. 平成元年～22年のわが国におけるテトラミンによる食中毒事例の月別の発生件数

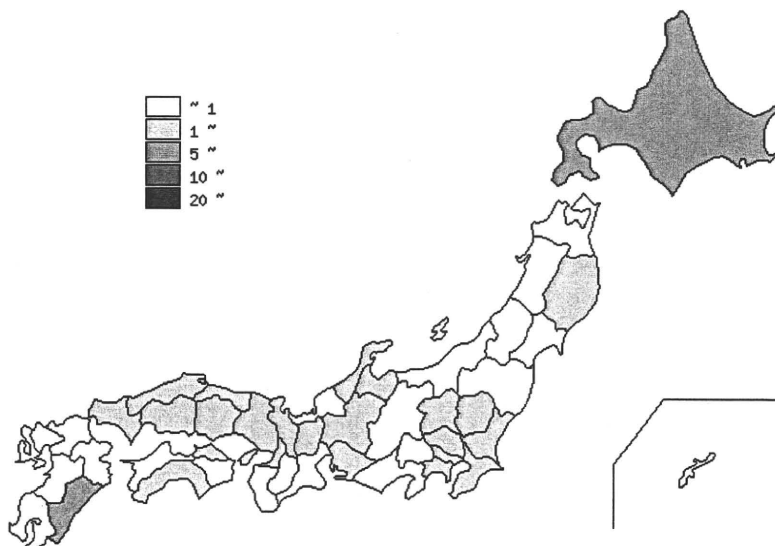


図14. 平成元年～22年のわが国におけるテトラミンによる食中毒事例の地域別の発生件数

表7. 平成元年～22年の我が国におけるテトラミンによる食中毒事例の巻き貝の種類

原因巻き貝(推定の事例を含む) ¹⁾	計
アツエゾボラ	1
アヤボラ	1
エゾボラ	2
エゾボラモドキ	23
クリイロエゾボラ	2
チヂミエゾボラ	6
チヂミエゾボラ又はマルエゾボラ	1
チョウセンボラ	2
ヒメエゾボラ	11
スルガバイ	1
その他(記載名:エゾバイ科、エゾボラ属、ツブ貝、バイ貝、巻き貝)	10
計	60

1) 推定の事例をを含んで合算

表8. 平成元年～22年のわが国におけるテトラミンによる食中毒事例の原因施設

原因施設	発生件数	%
家庭	54	90
飲食店	3	5
販売店	3	5
総計	60	100

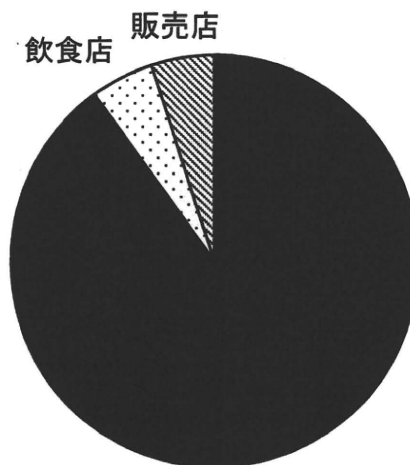


図15. 平成元年～22年のわが国におけるテトラミンによる食中毒事例の原因施設

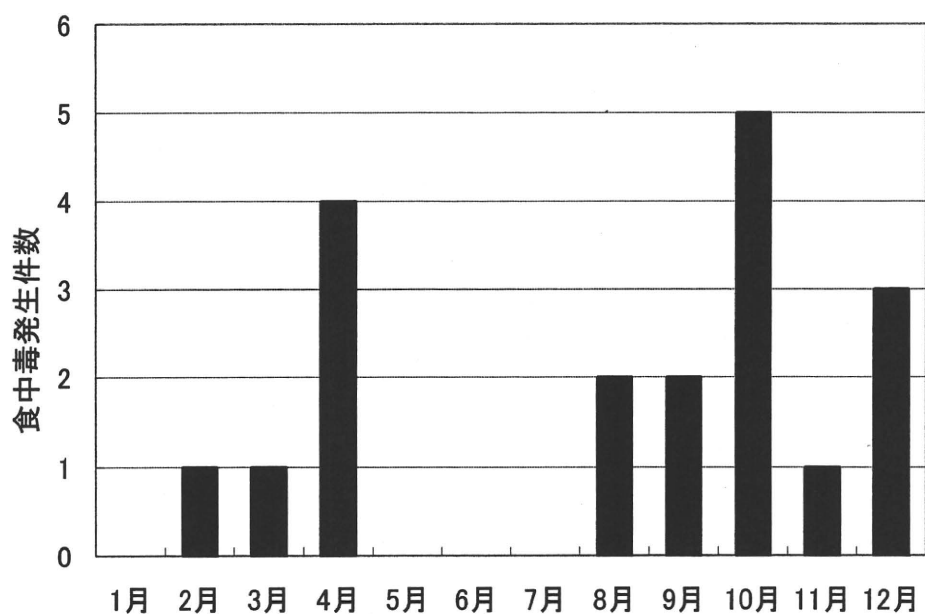


図16. 平成元年～22年のわが国におけるパルトキシン様毒による食中毒事例の月別の発生件数

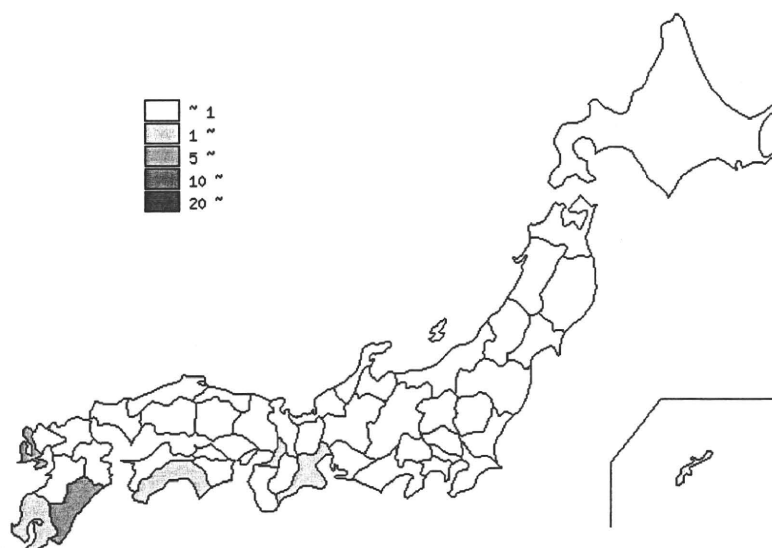


図17. 平成元年～22年のわが国におけるパルトキシン様毒による食中毒事例の地域別の発生件数

表9. 平成元年～22年の我が国におけるパリトキシシ様毒による食中毒事例の魚種

原因魚類(推定の事例を含む)	計
アオブダイ	12
ハコフグ	3
ウミスズメ	1
ナンヨウブダイ	
(同定についての記録がないため、アオブダイの可能性も否定できない)	1
ハコフグ科	1
ハタ科	1
総計	19

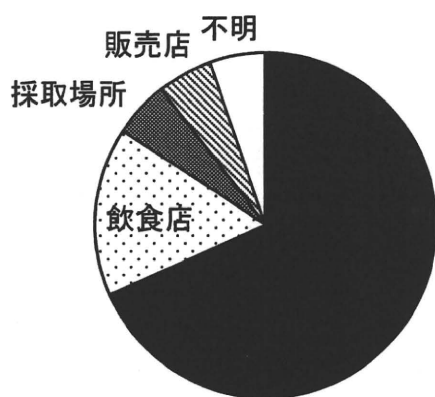


表10. 平成元年～22年の我が国におけるパリトキシシ様毒による食中毒事例の原因施設

原因施設	発生件数	%
家庭	13	68.4
飲食店	3	15.8
採取場所	1	5.3
販売店	1	5.3
不明	1	5.3
総計	19	100.0

図18. 平成元年～22年の我が国におけるパリトキシシ様毒による食中毒事例の原因施設

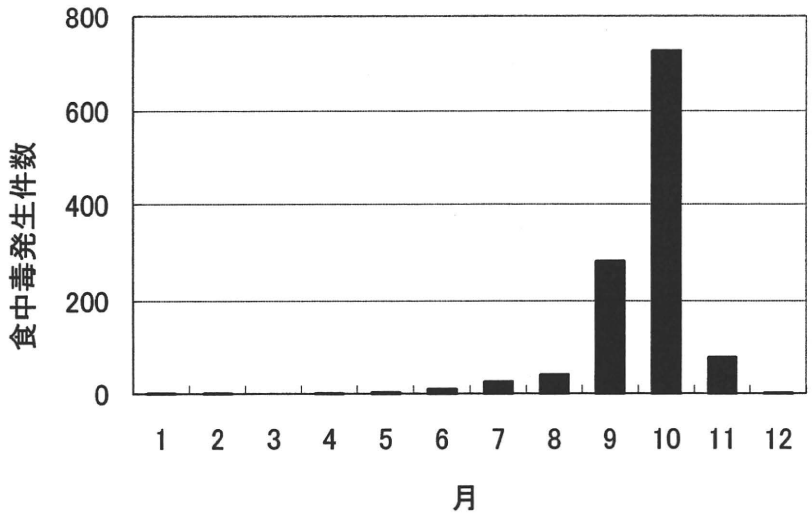


図19. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の月別の発生件数

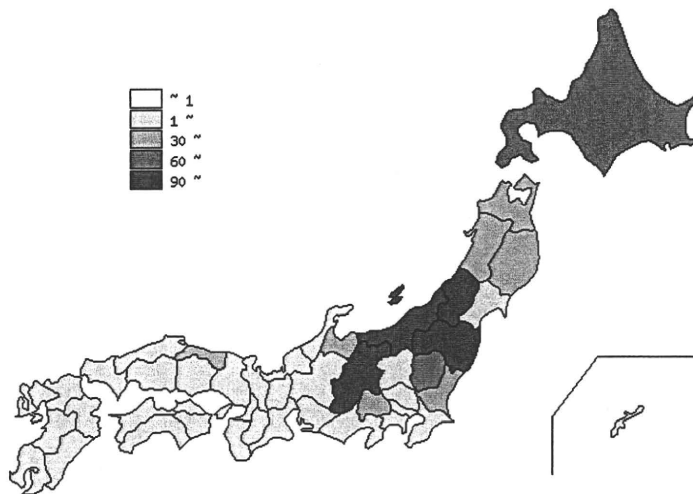


図20. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の地域別の発生件数

表11. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の原因施設

原因施設	発生件数	%
家庭	1036	88.4
事業場	31	2.6
販売店	31	2.6
飲食店	15	1.3
旅館	9	0.8
採取場所	7	0.6
学校	2	0.2
その他	39	3.3
不明	2	0.2
計	1172	100.0

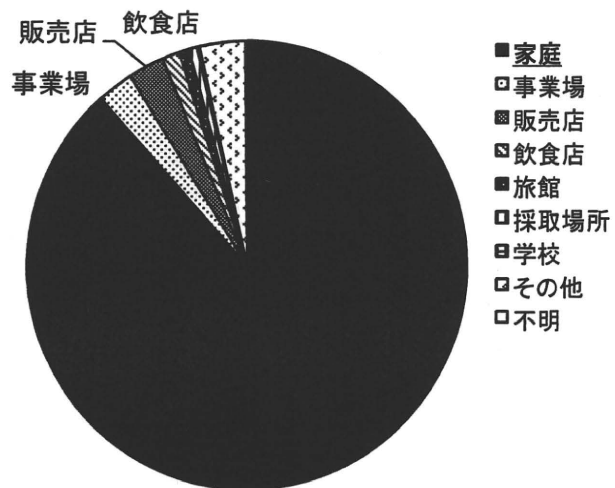


図21. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の原因施設

表12. 平成元年～22年のわが国におけるキノコの種類別の食中毒発生件数及び患者数

原因植物(推定の事例を含む)	計		原因植物(推定の事例を含む)	計	
	発生件数	患者数		発生件数	患者数
アイセンボンダケ	1		2 スギタケ属の一種	1	1
アセタケ	1		2 タマゴタケモドキ	1	1
イッポンシメジ	19		69 タマゴテングダケ	1	4
イッポンシメジ、クサウラベニタ	2		10 タマゴテングダケ・ドクツルタケ	1	2
イッポンシメジ科	7		26 タマゴテングダケモドキ類	1	1
イッポンシメジ又はクサウラベニタケ	2		3 チチアワタケ	1	2
イボテングダケ	3		4 ツキヨタケ	393	1,719
ウスキテングタケ	1		1 ツチスギタケ	8	14
ウスムラサキシメジ	1		1 テングタケ	39	60
オオキヌハダトマヤタケ	6		16 テングタケ科	4	8
オオキヌハダトマヤタケ、キヌハダニセトマヤタケ	1		5 ドクカラカサタケ	6	23
オオシビレタケ	3		5 ドクササコ	50	109
オオシロカラカサタケ	14		27 ドクツルタケ	16	52
オオシロカラカサタケ、ドクカラカサタケ	1		2 ドクツルタケ又はシロタマゴテングダケ(推定)	1	2
オオワライタケ	6		9 ドクヤマドリタケ、ドクヤマドリ	20	72
オシロイシメジ	1		3 ナカグロモリノカサ	1	3
カエンタケ	4		11 ナラタケ	1	1
カオリツムタケ	2		14 ナラタケモドキ	1	2
カキシメジ	86		347 ニガクリタケ	10	19
カキシメジ、ハナホウキタケ	1		2 ニガクリタケ、カキシメジ	1	3
カブラアセタケ	1		1 ニセクロハツ	3	9
カヤタケ属	12		23 ニセシヨウロ	2	3
キツチスギタケ	1		1 ネズミシメジ	4	14
クサウラベニタケ	258	1,041	8 ハイイロシメジ	8	18
クサウラベニタケ、カキシメジ	2		9 ハナホウキタケ	1	2
クサウラベニタケ、近縁種	1		13 ヒカゲシビレタケ	20	60
クサウラベニタケ・ハナホウキタケ	1		2 ヒメアジロガサタケ	1	2
クロハツモドキ	1		6 ヒメアジロガサモドキ	1	10
コウタケ	1		3 ヒメカタシヨウロ	1	2
コガネタケ	2		5 フクロツルタケ	1	4
コカブイヌシメジ	1		1 ベニテングタケ	4	8
コクサウラベニタケ	2		5 ホテイシメジ	1	1
コテングタケモドキ	1		3 モリノカレバタケ属	1	4
コレラタケ	2		5 ワライタケ	1	3
シビレタケ	2		8 種類不明/無記入	98	330
シビレタケ属	4		7 総計	1,172	4,291
シロタマゴテングタケ	7	20			
シロタマゴテングダケ、ツルタケ	1	2			
ダマシ	2	3			
シロテングタケ	1	2			
シロトマヤタケ	1	1			
シロヒメカヤタケ	1	1			

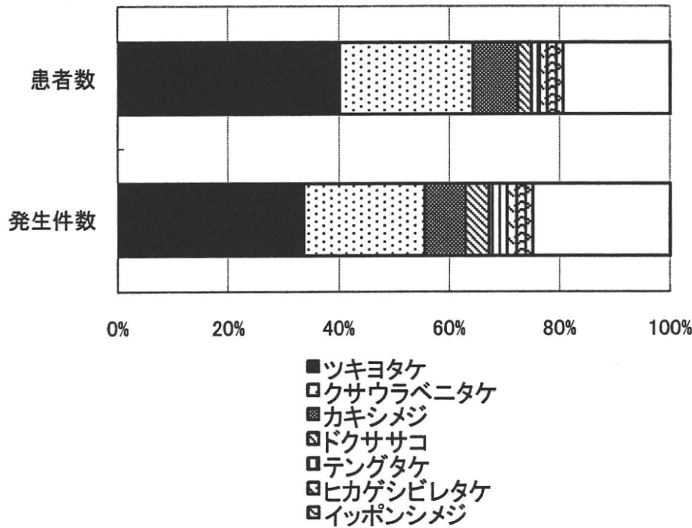


図22. 平成元年～22年のわが国のキノコによる食中毒における発生件数上位の寄与率

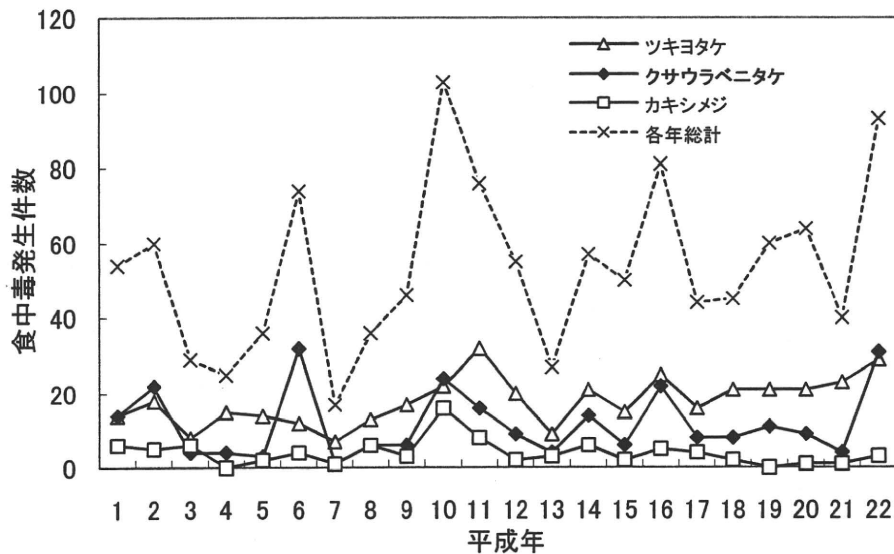


図23. 平成元年～22年のわが国のキノコによる食中毒における発生件数上位3位の経年変化

表13. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒死亡事例

キノコ種類(推定の事例も含む)	発生件数	死亡者数
ドクツルタケ	9	11
シロタマゴテングタケ	3	4
ニセクロハツ	3	4
カエントケ	2	2
ツキヨタケ	1	2
タマゴタケモドキ	1	1
タマゴテングタケ	1	1
ドクツルタケ	1	1
ニガクリタケ	1	1
無記入	3	4
計	24	30

表14. 平成元年～22年のキノコによる食中毒事例において、採取しようとしたキノコと食中毒の原因キノコ(括弧内は事例件数;272事例中)

原因キノコ(推定の事例を含む)	採取しようとしたキノコ
イッポンシメジ	ウラベニホテイシメジ、シメジ
イッポンシメジ科	ウラベニホテイシメジ
オオキヌハダトマヤタケ	ナラタケ
オオシビレタケ	ナラタケ
オオワライタケ	コガネタケ(2)、シメジ
カエンタケ	ベニナギナタタケ
カオリツムタケ	ナラタケ、ナラタケモドキ、クリタケ
カキシメジ	クリタケ(2)、クリフウセンタケ、シメジ(7)、ツチナメコ、ニセアブラシメジ(3)、ハナイグチ(2)、マツタケ、ムラサキシメジ
カヤタケ属	シメジ(2)、ナラタケ、ハタケシメジ(2)、ムラサキシメジ
キツチスギタケ	スギタケ
クサウラベニタケ	ウラベニホテイシメジ(24)、ウラベニホテイシメジ又はサクラシメジ、クロシメジ、シイタケ、シメジ(13)、ナラタケ(4)、ハタケシメジ(9)、ヒラタケ、ホテイシメジ(2)、ホンシメジ(7)、ミネシメジ
コクサウラベニタケ	ホンシメジ
シロタマゴテングタケ	シロマツタケ、シロマツタケモドキ、スギモダシ
シロテングタケ	サワマツタケ(2)
タマゴテングタケ・ドクツルタケ	ツチスギタケ
ツキヨタケ	キキタケ、シイタケ(38)、ナラタケ(4)、ヒラタケ(53)、ブナシメジ、ブナハリタケ、ムキタケ(21)、ムキタケ又はヒラタケ(2)
テングタケ	カラカサタケ、ガンタケ、シメジ(2)、ハツタケ、マツタケ
ドクササコ	シメジ、ナラタケ(13;モタセ含む)
ドクツルタケ	オトメノカサ、シロマツタケモドキ(2)、ツルタケ
ドクヤマドリタケ、ドクヤマドリ	ヤマドリダケ(3)、ヤマドリタケモドキ(2)
ニガクリタケ	クリタケ(5)、ナラタケ
ニガクリタケ、カキシメジ	クリタケ
ニセクロハツ	クロハツ
ネズミシメジ	シモフリシメジ
ハイロシメジ	シロシメジ(2)
ヒカゲシビレタケ	エノキダケ、ナラタケ(2)、ハタケシメジ(2)
ヒメアジロガサタケ	ナラタケ
ヒメアジロガサモドキ	ナラタケ
フクロツルタケ	ツルタケ

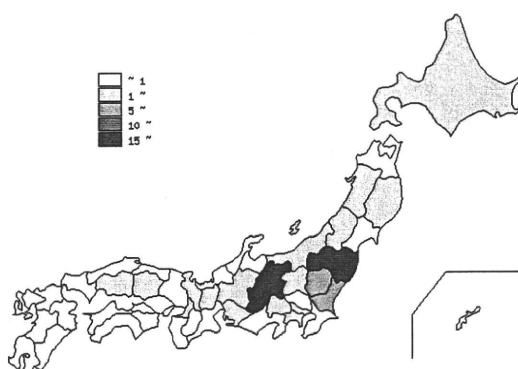
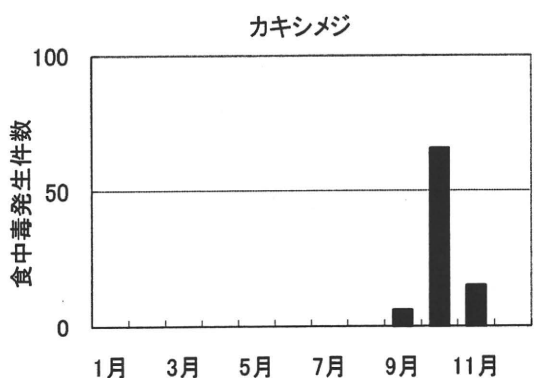
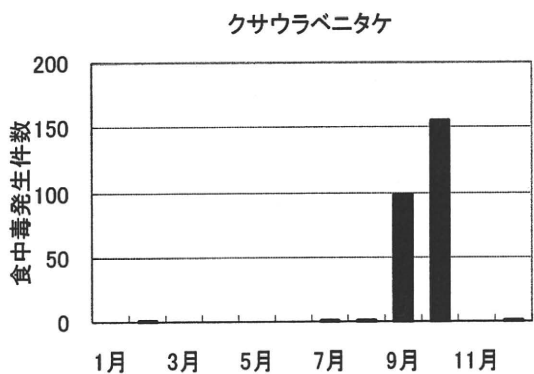
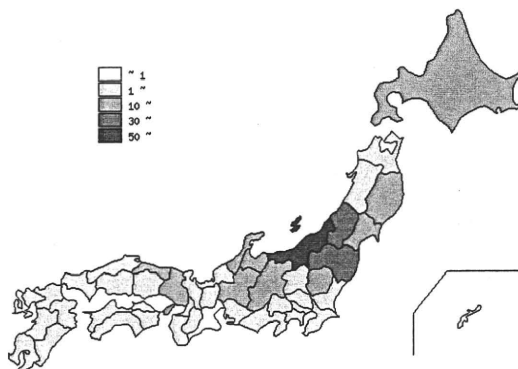
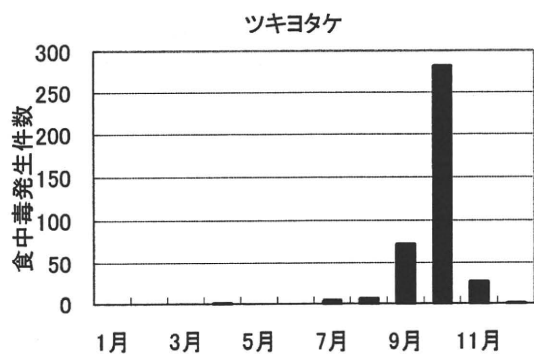


図24. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の発生件数上位6位の月別及び地域別の発生件数(その1)

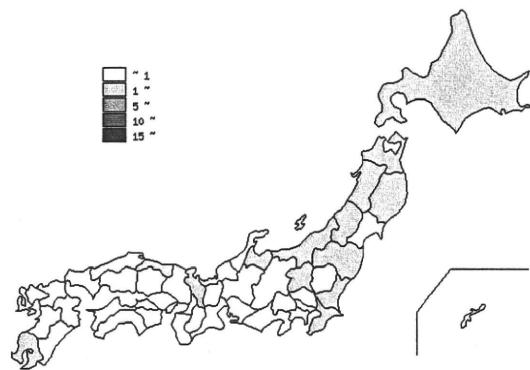
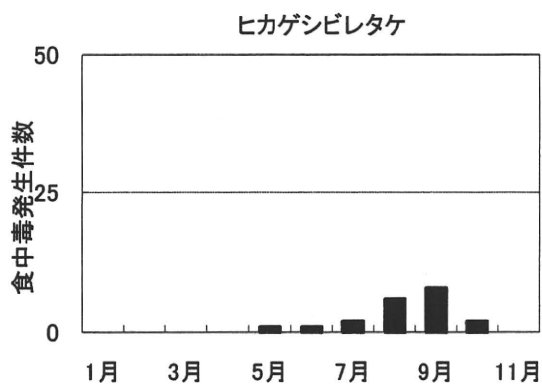
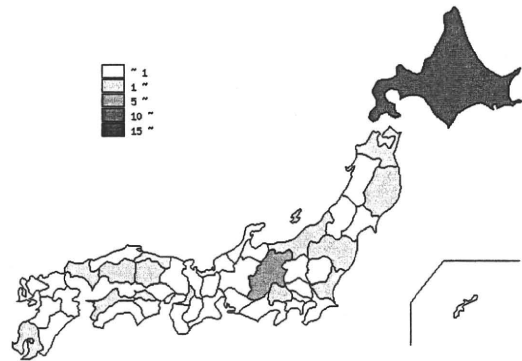
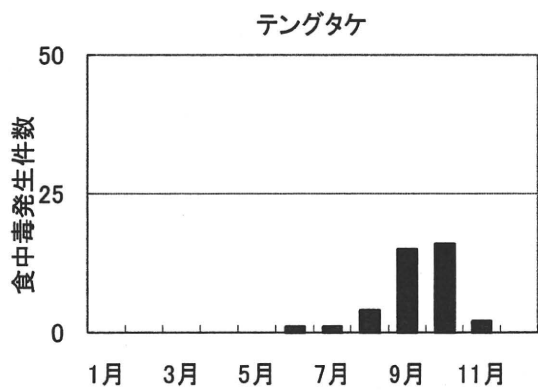
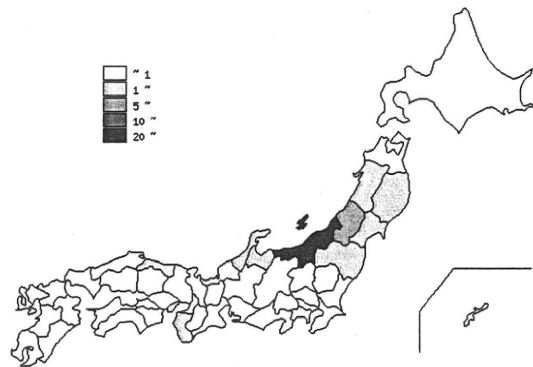
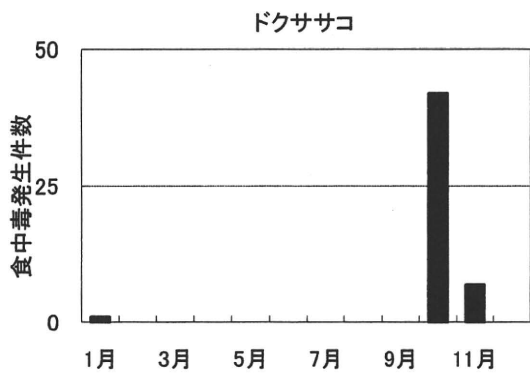


図25. 平成元年～22年のわが国におけるキノコによる食中毒事例の発生件数上位6位の月別及び地域別の発生件数(その2)

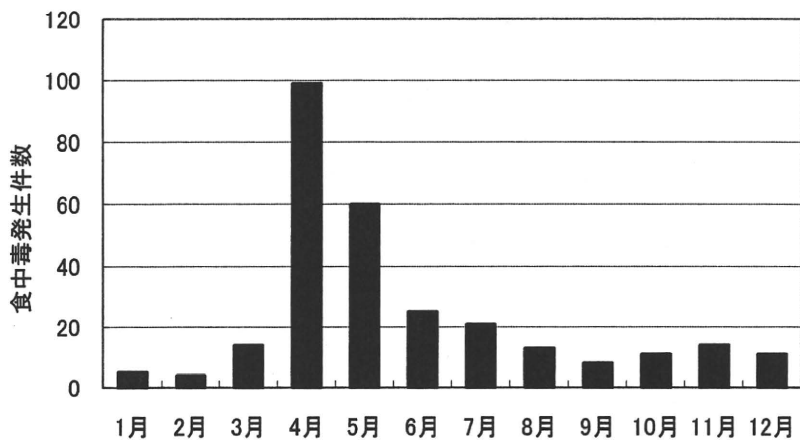


図26. 平成元年～22年のわが国における高等植物による食中毒事例の月別の発生件数

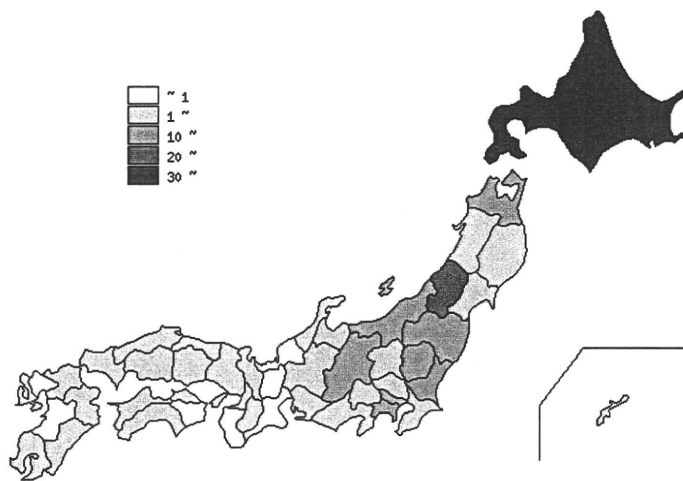


図27. 平成元年～22年のわが国における高等植物による食中毒事例の地域別の発生件数

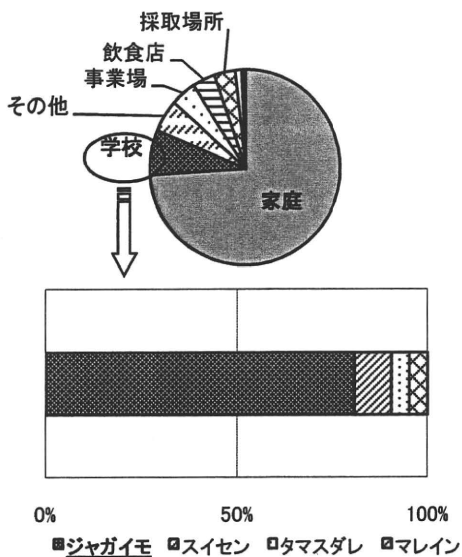


表15. 平成元年～22年のわが国における高等植物による食中毒死亡事例

種類	発生件数	死亡者数
イヌサフラン	2	2
グロリオサ	2	2
トリカブト	3	3
計	7	7

図28. 平成元年～22年のわが国における高等植物による食中毒事例の原因施設

表16. 平成元年～22年のわが国の高等植物による食中毒事例の原因植物

原因植物	発生件数
バイケイソウ、コバイケイソウ、オオバイケイソウ	65
チョウセンアサガオ・キダチチョウセンアサガオ	51
トリカブト	46
スイセン	29
ジャガイモ	17
クワズイモ、ハシリドコロ	14
ヨウシュヤマゴボウ	7
イヌサフラン	6
ドクゼリ、ユウガオ、テンナンショウ類	3
グロリオサ、ジギタリス、シキミの実、ドクニンジン、ヤマゴボウ、アジサイ、アブラギリ	2
カラー、カロライナジャスミン、キダチタバコ、キルタンサス、ザゼンソウ、シャクナゲ、シュロソウ、タバコ、タマスダレ、ドクウツギ、ヒョウタン、マレイン、ヤハズエンドウ	1

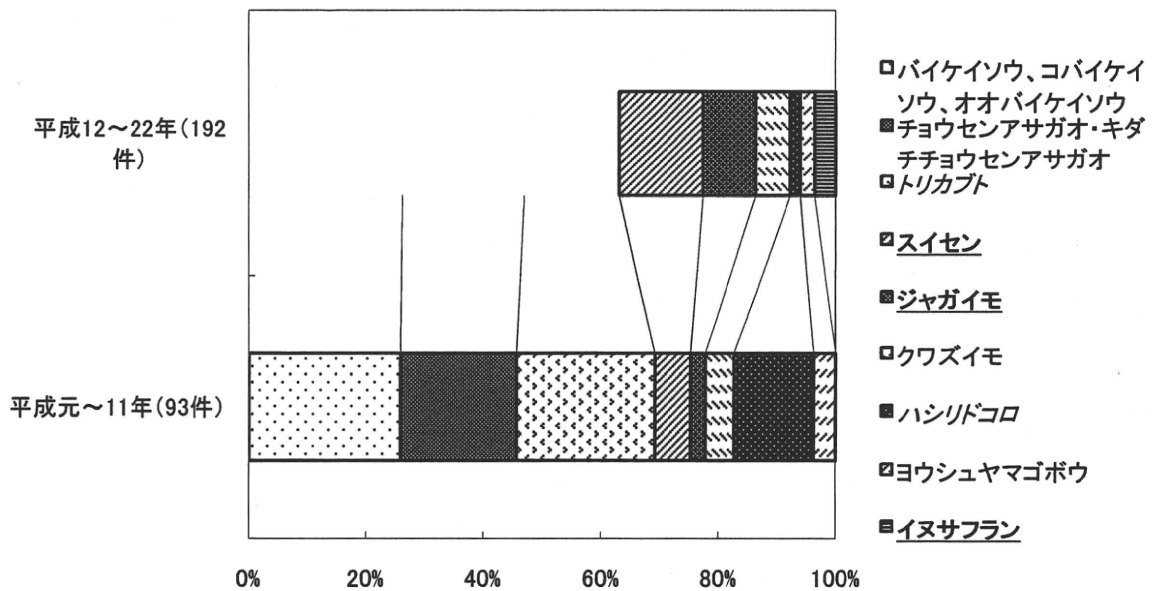


図29. 平成元年～22年のわが国の高等植物による食中毒事例の発生件数上位の11年毎変化

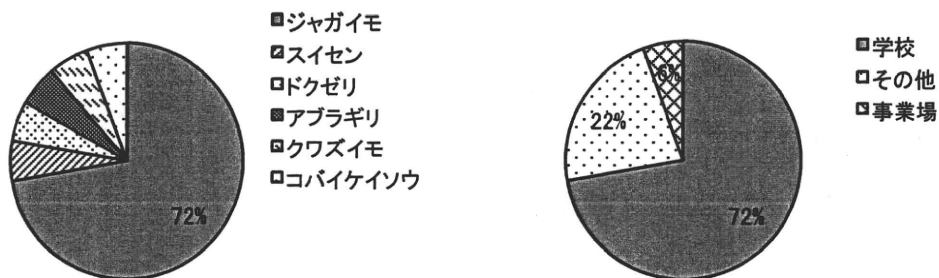


図30. 患者数が15名を超えた食中毒事例の原因植物及び原因施設